

【1】令和4年度 教育調査の結果について

このことについては、本校の学校だより（『西宮だより』令和4年度2月号）において、保護者や学校運営協議会にお示しました。令和5年2月24日（金）には本校において学校関係者評価委員会が行われ、教育調査の分析に基づいた自己評価（教育活動の成果・課題、改善策等）について、学校側から委員の皆様 に説明をしました。この度、【1】「教育調査の結果」と【2】「自己評価・学校関係者評価」につきまして、本ホームページ上で公表いたします。

1 生徒対象の教育調査の結果

教育調査（生徒対象）の結果（肯定率） * 青字は前年度の肯定率を上回ったもの 回答率：91.4%(R2) 91.3%(R3) 87.4%(R4)

	質問内容（杉並区共通）	肯定率の推移		
		R2	R3	R4
1	先生は、クラスみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	94.4%	80.5%	85.6%
2	授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	*	63.1%	55.7%
3	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	55.9%	43.9%	43.0%
4	授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。	*	56.7%	49.8%
5	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	*	79.9%	78.4%
6	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	86.3%	82.3%	85.6%
7	先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	82.8%	71.0%	73.1%
8	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	95.6%	92.4%	91.1%
9	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	80.6%	74.4%	80.3%
10	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	84.4%	76.8%	78.0%
11	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	77.5%	74.4%	73.4%
12	学校や家などで、1か月に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ。	*	*	80.7%
13	地域の行事に参加している。	*	29.9%	23.9%
14	先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	55.3%	42.1%	42.6%
	質問内容（学校独自）	肯定率の推移		
		R2	R3	R4
15	先生は、整理・整頓や清掃について、話をしたり考え（活動）させたりしています。	78.6%	63.1%	58.4%
16	先生は、体験的な活動や調べてみる学習に進んで取り組めるように指導をしてくれます。	78.6%	68.6%	70.3%
17	先生は、あいさつの励行やきまりを身に付け、学校生活が向上するよう指導をしてくれます。	85.3%	77.7%	78.2%
18	先生は、学級活動や生徒会活動・学校行事に進んで取り組めるように指導をしてくれます。	81.0%	76.5%	80.2%
19	先生は、将来の進路や生き方・働くことの意味について、先生や友達と相談したり、考えたりすることができるよう指導をしてくれます。	75.4%	75.0%	73.3%
20	先生は、いじめや仲間はずれなどがなく、相手の立場を考え、互いに協力し合える関係がつかれるように指導している。	*	73.2%	79.2%
21	先生は、相談にのってくれたり、意見を尊重したり、励ましたりしてくれます。	76.6%	65.5%	68.3%
22	先生は、学校生活が充実し、楽しめるように指導をしてくれます。	82.3%	72.3%	78.2%
23	友達や先生に対して、気持ちの良いあいさつができています。	84.8%	77.4%	80.2%
24	学級・学年活動や生徒会活動・部活動を通して、自分の役割を果たし、自己の有用感や成就感を味わっている。	76.6%	68.9%	73.3%
25	I C Tを活用した授業では、発言・発表の機会を増やし、生徒が互いに学び合う活動を多く取り入れている。	81.4%	76.8%	84.2%
26	小中連携における小学生と中学生の交流や、上級学校訪問などを通しての進路学習を進めることは、とても意義のあることである。	62.4%	58.8%	69.3%
27	中学生レスキュー隊や地域の祭礼・行事等でのボランティア活動へ積極的に参加している。	28.6%	23.2%	37.6%
28	先生方は、生徒の呼び方や生徒への声掛けの際の言葉遣いに、十分気を配っている。	74.1%	71.3%	79.2%

2 保護者対象の教育調査の結果

教育調査（保護者対象）の結果（肯定率） *青字は前年度の肯定率を上回ったもの 回答率：85.7%(R2) 80.6%(R3) 70.2%(R4)

	質問内容（杉並区共通）	肯定率の推移		
		R2	R3	R4
1	子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。	86.7%	75.5%	76.7%
2	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	45.0%	31.5%	45.7%
3	学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	62.5%	57.3%	60.4%
4	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	89.0%	75.9%	80.0%
5	子どもは、学校で学ぶことにより、必要なときに、必要なことを、自ら学んで身に付けることができる力が育っている。	*	62.2%	60.8%
6	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	71.3%	57.3%	54.3%
7	学校は、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。	54.7%	69.2%	66.5%
8	子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	87.7%	74.5%	75.1%
9	子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。	83.0%	80.1%	77.6%
10	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校がその解決をきめ細かに支援してくれている。	*	51.7%	50.6%
11	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	39.7%	32.9%	31.8%
12	子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子どもと交流したり、一緒に活動したりする機会がある。	*	11.9%	10.6%
13	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	66.7%	55.2%	55.1%
	質問内容（学校独自）	肯定率の推移		
		R2	R3	R4
14	学校は、様々な専門性をもつ人材が協力し、組織的に子どもたちの成長を支えてくれていると感じている。	69.3%	80.4%	44.1%
15	学校は、障害など、参加に困難を抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている。	41.9%	48.6%	22.4%
16	義務教育9年間を通した一貫性のある教育（小中一貫教育）は、子どもたちの成長や発達により効果をもたらしている。	45.8%	38.5%	36.7%
17	いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて教員が協力して取り組み、生徒たちは、相手の立場を考え、互いに協力し合う関係が作られている。	59.1%	37.1%	39.6%
18	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校がその解決を支援してくれている。	62.6%	39.5%	39.2%
19	学校での生活を通して、子どもに、地震や火災など、様々な危険を予測し、回避する力が育まれていると感じている。	74.0%	39.5%	58.8%
20	教室や校庭などの清掃、整理・整頓など環境整備が行き届いている。	89.2%	68.9%	69.4%
21	先生たちは、子どもたちのために意欲的に教育活動に取り組んでいる。	85.4%	78.7%	76.3%
22	先生たちは、体験的な活動や調べてみる学習に進んで取り組めるように指導をしている。	79.2%	80.1%	71.4%
23	先生たちは、学級活動や生徒会活動・学校行事に進んで取り組めるように指導をしている。	82.0%	73.8%	76.7%
24	先生たちは、将来の進路や生き方・働くことの意味について、先生や友達と相談したり、考えたりすることができるよう指導をしている。	67.4%	76.2%	59.6%
25	先生たちは、生徒や保護者の相談に応じたり、意見を尊重し、励ましたりしている。	80.6%	58.4%	67.3%
26	先生たちは、生徒の学校生活が充実し、楽しめるように指導している。	82.1%	71.3%	71.4%
27	学校は、必要に応じて保護者の意見や要望を取り入れている。	68.5%	72.0%	54.7%
28	学校の考えや取組を、学校だよりやホームページ、参観・懇談会等を通して保護者に伝えている。	84.7%	54.5%	78.4%

3 学校運営協議会委員対象の教育調査の結果

教育調査（学校運営協議会委員対象）の結果（肯定率） 回答率：90.0%

	質問内容（杉並区共通）	肯定率 R4
1	子どもたちは、学ぶ楽しさを実感しながら、問いや課題を自分なりに立て、自分なりの方法で解決したり探究したりする力が育っている。	100.0%
2	子どもたちは、違いを認め合って共に生きる大切さを実感しながら、それぞれの得意を生かしたり、苦手を補い合ったりする力が育っている。	88.9%
3	教員は、全ての子どもが共に学ぶ中で自分らしく成長できるよう、それぞれの経験や専門性を生かし合っている。	88.9%
4	学校は、全ての子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭や地域、民間の団体や企業等と連携している。	100.0%
5	児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちによって、その時々での学びや生活の必要に応じて、選択的に活用されている。	88.9%
6	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。	77.8%
7	学校では、校長を中心に、教育目標や目標達成の基本方針、指導の重点について家庭・地域と協議し、子どもたちの思いや願いを尊重する教育課程を編成している。	100.0%
8	学校では、授業や行事、学校生活の内容や進め方について、子どもたちが、学びや生活の主体であることを実感しながら、自分たちで考えたり教職員（学校関係者を含む）と話し合ったりしている。	100.0%

4-1 教員対象の教育調査の結果（杉並区共通質問）

1 教育調査（教員）：共通質問の結果（肯定率）*青字は前年度の肯定率を上回ったもの

No.	領域	観点（質問内容）	肯定率の推移		
			R2	R3	R4
1	学校経営	児童・生徒や保護者から障害等への合理的配慮が求められた場合、校内委員会で検討し、実施に努めている。	95.0%	100.0%	95.5%
2	学校経営	学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。	100.0%	86.4%	95.5%
3	教育課程	カリキュラム・マネジメントの視点に立って、教科間のつながりを踏まえた教育活動に取り組むとともに、計画的な評価・改善を行っている。	90.0%	86.4%	86.4%
4	教育課程	各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画を作成している。	95.0%	72.7%	86.4%
	学習指導	学び残しやつまずきを減らし、全ての児童・生徒の学力を向上させるための授業を行っている。	85.0%		
5	学習指導	授業では、子どもたちが、学習を進める方法やペースを自分たちで決めながら学べるようにしている。		68.2%	90.9%
	学習指導	授業では、一斉学習、子どもたち主体の個別学習と協働学習を組み合わせている。	100.0%		
6	学習指導	授業では、子どもたちが、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたり、できるように、一人一人に合わせて教えている。		72.7%	95.5%
7	学習指導	授業では、子どもたちが、自分の興味や関心に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている。		68.2%	86.4%
8	学習指導	授業では、子どもたちが自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学べるようにしている。		68.2%	95.5%
9	学習指導	各教科等において、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。	100.0%	100.0%	90.9%
10	学習指導	学習指導要領に基づく各教科等の目標や内容の系統性を理解し、学年や小・中学校の接続を踏まえた授業を行っている。	94.7%	90.9%	95.5%
11	学習指導	連携する小・中学校の教員が協力し合って各教科等の学習指導に取り組んでいる。	47.1%	54.5%	68.2%
12	特別支援教育	特別な支援が必要な児童・生徒に対して、校内委員会で検討し、個別の教育支援計画を作成している。	95.0%	95.5%	100.0%
13	特別支援教育	特別な支援が必要な児童・生徒に対して、個別の教育支援計画に基づく個別指導計画を作成・実施している。	100.0%	86.4%	100.0%
14	地域と共に在る学校	授業や教育活動において、地域の人材を計画的に活用している。	89.5%	86.4%	81.8%
平均			91.5%	81.2%	90.6%

4-2 教員対象の教育調査の結果（学校独自質問）

2 教育調査（教員）：独自質問の結果（肯定率） *青字は前年度の肯定率を上回ったもの

No.	領域	観点（質問内容）	肯定率の推移		
			R2	R3	R4
15	いじめ対応	「杉並区いじめ防止対策推進基本方針」に則り、いじめの未然防止、早期発見、解決に向けた取組に迅速に対応できる組織をつくっている。	100.0%	100.0%	100.0%
16	子小中連携	学校や地域の実情に合わせた小中一貫教育を進めている。	61.1%	63.6%	77.3%
17	環境の整備	教室や校庭などの清掃、整理・整頓など環境整備が行き届いている。	80.0%	77.3%	90.9%
18	教員の意欲	一人一人の教員が課題をもって意欲的に教育活動に取り組んでいる。	100.0%	90.9%	100.0%
19	総合的な学習の時間	体験的・探究的な活動を組織し、生徒の学習課題に応じた指導をしている。	80.0%	72.7%	90.9%
20	道徳指導	道徳の時間を大切に、生徒が心のありようを考えたり、気付いたりすることができる時間になるよう指導をしている。	100.0%	100.0%	95.5%
21	特別活動	学級活動や生徒会活動・学校行事が活発に行われるよう指導している。	100.0%	90.9%	95.5%
22	生活指導	挨拶やきまりを守り、基本的な生活習慣を身に付け、学校生活が向上するよう指導をしている。	100.0%	90.9%	100.0%
23	進路指導	生徒に将来の生き方を考えさせる機会を多く設け、勤労観・職業観を育てる指導をしている。	95.0%	90.9%	95.5%
24	健康・安全指導	体力を高めるために運動したり、健康の保持増進や安全等について、適切に指導している。	89.5%	86.4%	90.9%
25	生徒どうしの人間関係	生徒間にはいじめ等がなく、好ましい人間関係を築いていけるように指導している。	100.0%	90.9%	100.0%
26	教員に対する信頼性	生徒が安心して、相談できるような信頼関係をつくっている。	95.0%	100.0%	95.5%
27	生徒の学校生活	生徒は登校するのを楽しみにしており、充実した学校生活を送っている。	100.0%	81.8%	90.9%
28	保護者との連携	必要に応じて保護者の意見や要望を取り入れている。	95.0%	95.5%	90.9%
29	学校の公開	学校の考えや取組を、学校だよりや学年だより、参観・懇談会、HPを通して保護者に伝えている。	90.0%	95.5%	95.5%
30	人とかかわりあう力の育成	保護者や生徒に対し、また教師間において、気持ちの良いあいさつを行っている。	90.0%	90.9%	100.0%
31	規律ある集団	自立・自律する規律ある集団活動を通して、生徒の個性を伸ばすことに努めている。	90.0%	100.0%	100.0%
32	学力向上の推進	ICTを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業を推進している。	90.0%	95.5%	100.0%
33	上級学校や小学校との連携	小中一貫教育研修会へ積極的に参加したり、上級学校との連携を図った進路学習・生き方学習を推進したりしている。	76.5%	90.9%	95.5%
34	地域や社会への貢献	中学生レスキュー隊やボランティアへの参加・協力や、地域の祭礼・行事等へ積極的に参加している。	72.2%	81.8%	100.0%
35	生徒の人権を 守り育てる 言語活動	生徒の呼び方に注意したり、生徒の状況や心情を理解した言葉遣いに気を配っている。	95.0%	86.4%	95.5%
平均			89.2%	89.2%	95.2%

【2】杉並区立西宮中学校 令和4年度 自己評価・学校関係者評価について

教育調査の結果に基づく自己評価と学校関係者評価委員会が出た各委員からの意見・感想及び質問等について、学校側の回答とともに「学校関係者評価の結果」としてまとめました。

1 自己評価（教育調査の分析）

（1）生徒対象 杉並区共通質問

- 共通質問 1 4 項目のうち、6 項目で昨年の肯定率を上回った。
- 昨年度に比べ肯定率が下がった項目は 7 項目である。そのうち、3 項目において肯定率が 50%を下回った。
- ・【質問 3】「授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。」の肯定率は 43.0%であった。また、【質問 4】「授業では自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。」の肯定率は 49.8%であった。校内において I C T 機器が配備され、個に応じた学びの環境が整いつつある中で、今後ますます I C T 機器の活用による個別最適な学びができるよう、指導方法の工夫・改善を図る必要がある。また、教材研究をさらに深めることで生徒の問いを引き出し、生徒が主体的に学習する課題解決的な授業を展開する必要がある。
- ・【質問 1 3】「地域の行事に参加している。」の肯定率は 23.9%であった。少しずつ地域行事が再開しているとはいえ、まだまだ生徒の参加には制約もあるため肯定率は低迷している。
- ・【質問 1 4】「先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。」の肯定率は昨年度より 1.5 ポイント上昇したが、50%を下回った。本校の共育支援本部が定期考査前に自習教室「アフタースクールスタディ」や英語検定試験及び漢字検定試験の運営、土曜授業での外部講師の招聘、植栽等の環境整備や校内掲示等で多大な協力をいただいている。また、震災救援所連絡会には防災教育講演会や第 3 学年対象の震災救援所訓練、中学生レスキュー隊との合同訓練等、防災教育にも積極的に関わっていただいた。来年度も地域との協働によって、授業や学校行事の一層の充実を図るとともに、まだまだこうしたことが知られていない面もあるため、生徒及び保護者への周知にも努める。

（2）生徒対象 独自質問

- 独自質問 1 4 項目のうち、1 2 項目で昨年の肯定率を上回った。
- 肯定率 50%を下回った項目はなかった。なお、肯定率 60%に達していない項目は 1 つのみであった。
- ・【質問 1 5】「先生は、整理・整頓や清掃について、話をしたり考え（活動）させたりしています。」の肯定率は 58.4%であった。本校では毎日の清掃活動はもとより、毎学期末に実施する大掃除をはじめ環境委員会が主催する美化コンクール等を通して、校内美化についての意識の向上を図っている。また、生徒会主催の落ち葉掃きプロジェクトでは多くの生徒によるボランティアが敷地内の落ち葉清掃に取り組んだ。肯定率が 60%を下回っている結果から、すべての生徒にとって美化コンクールや落ち葉掃きプロジェクト等の取組がその場限りの取

組として捉えてしまっていたり、生徒自らが主体的に考え話し合う機会が少ないと感じていたりする可能性が考えられる。これらの取組は継続して実施することに意味がある。生徒にとって整理・整頓及び清掃活動がなぜ大切なのかについて教員が絶えず伝えることはもちろんだが、生徒自身にも考えさせる機会を増やす必要がある。

（３）保護者対象 杉並区共通質問

- 共通質問 1 3 項目のうち、昨年度の肯定率を上回った項目は 5 項目である。
- 昨年度に比べて肯定率が下がった項目は 8 項目である。また、肯定率 50%を下回った項目は 4 項目である。
- ・【質問 2】「連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。」の肯定率は 45.7%で 50%を下回ったが、昨年度に比べて 14.2 ポイント上昇した。小中一貫教育については、連携する小学校との合同研修会を 5 回実施した。小学生の中学校体験については、今年度は小学 6 年生による中学校授業体験と部活動体験を行った。コロナ禍により中止が続いた西宮アドベンチャーも 3 年ぶりに開催できた。内容については新型コロナウイルス感染症を考慮し、例年とは異なり地域の小学校 4 校の 5・6 年生を対象にした部活動体験を実施した。
- ・【質問 1 1】「学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。」の肯定率は 31.8%であった。特別支援教育については、巡回の特別支援教室教員や済美教育センター及び特別支援教育課等を始めとする関係諸機関と連携し、特別な支援が必要な生徒及び保護者には様々な情報を伝えているが、一般の生徒及び保護者にとっては情報に触れる機会が少ないと感じられたかもしれない。今後は情報提供の方法をさらに工夫する必要がある。
- ・【質問 1 2】「子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子ともと交流したり、一緒に活動したりする機会がある。」の肯定率は 10.6%であった。この質問の回答不能率は 29.8%であり、「どちらともいえない」と回答不能を合わせた割合は 66.9%であった。昨年度は新型コロナウイルス感染症を予防するために特別支援学校の副籍生徒との直接交流等が中止となったが、今年度は昨年度に引き続き、野球部やバレーボール部等において交流試合を実施した。来年度はこのような取組を広く保護者や地域の方々に知っていただくことが課題であると考えます。

（４）保護者対象 独自質問

- 独自質問 1 5 項目のうち、昨年度の肯定率を上回った項目は 7 項目である。
- 肯定率 50%を下回った項目は 5 項目である。
- ・【質問 1 4】「学校は、様々な専門性をもつ人材が協力し、組織的に子どもたちの成長を支えてくれていると感じている。」の肯定率は 44.1%であった。この質問に対する「どちらともいえない」と回答不能を合わせた割合は 44.5%であった。本校の特色ある教育活動として、共育支援本部の協力をいただき外部人材を招聘した授業を積極的に推進しているが、その内容が十分保護者には伝わり切れていないため、今後は学校だよりや保護者会等を通して情報をより積極的に保護者や地域に発信していきたい。

- ・【質問 1 5】「学校は、障害など、参加に困難を抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている。」の肯定率は 22.4%であった。この質問に対する回答不能率は 26.1%で、「どちらともいえない」と回答不能を合わせた割合は 62.4%であった。これまでも学校は、教室に入ることが困難な生徒や集団活動が苦手な生徒等に対して、それぞれ個に応じた対応の一環として別室登校できる教室の確保やそこで行う課題を提示したり、合計 5 名の学生サポーターを活用した学習支援や見守り活動等のきめ細やかな支援を実施してきた。これからもそのような生徒に対して支援を継続するとともに、特別支援教室に通室していないが、支援の必要な生徒への適切な配慮や支援を充実させていく。
- ・【質問 1 6】「義務教育 9 年間を通した一貫性のある教育（小中一貫教育）は、子どもたちの成長や発達によい効果をもたらしている。」の肯定率は 36.7%であった。小中学校教員の多くは、指導方法の連続性や教育内容の系統性を担保する上で、小中一貫教育は意義があると認識している。一方で、保護者にはその意義が十分に伝わっていないものと推察される。
- ・【質問 1 7】「いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて教員が協力して取り組み、生徒たちは、相手の立場を考え、互いに協力し合う関係が作られている。」の肯定率は 50%を下回ったが、昨年度と比較すると 2.5 ポイント上昇した。生活指導部における「いじめ不登校校内委員会」や「特別支援校内委員会」等において、いじめや不登校への組織的な対応は強化している。また、昼休みや休み時間を中心に教員が教室や廊下などで生徒たちを見守る活動を通して対話を深めている。教員によるこれらの取組を通して、いじめや不登校につながる小さな芽を発見し、諸問題に対して組織的に対応している。今後はこれらの活動を一層強化することで、保護者にとってさらに安心できる学校にしていく必要がある。

（5）学校運営協議会委員対象 共通質問

- ほとんどの共通質問で肯定率が 80%を大きく上回り、高い評価をいただいた。
- 肯定率 80%を下回った項目は 1 つであった。
- ・【質問 6】「学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。」の肯定率は 77.8%であった。生徒が学習する上で環境を整えることは重要であり、その学習にふさわしい場を設定したり雰囲気を作ることはとても意味があることである。小学校とは異なり、中学校という資源が限られた状況の中で、最大限の工夫と努力を重ねることが重要であると考え。

（6）教員対象 杉並区共通質問

- 共通質問 1 4 項目のうち、1 0 項目において昨年度の肯定率を上回った。
- 肯定率が 80%未満の項目は次の 1 項目である。
- ・【質問 1 1】「連携する小・中学校の教員が協力し合って各教科等の学習指導に取り組んでいる。」の肯定率は 68.2%であった。年間 5 回の小中一貫教育研修会において、小・中学校の教員が研修を通して互いに学

び合う機会があったが、協働して指導を行うまでには至っていない。今後は、小中一貫教育研修会で得た成果を生かして、例えば小・中学校の教員がお互いに教科指導における専門的なアドバイスを行うなどの取組も模索していきたい。

(7) 教員対象 独自質問

- 独自項目 2 1 項目のうち、肯定率が 80%を上回る項目は 2 0 項目であった。
- 肯定率が 80%を下回る項目は次の 1 項目であった。
- ・【質問 1 6】「学校や地域の実情に合わせた小中一貫教育を進めている。」の肯定率は 77.3%で、昨年度の肯定率を 13.7 ポイント上回った。一昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、小中一貫教育研修会が全く実施できなかったが、昨年度は制約がある中、リモート等により研修会を実施することができた。さらに今年度は対面で小・中それぞれの教員による授業参観も 3 年振りに実施することができた。これらの活動等により、肯定率は年々上昇している。中学校の教員が連携する小学校を訪問し、そこで学ぶ児童の姿や様子を観察することを通して、児童・生徒にとってどのような学びや支援が必要で、そのための最善の方策は何なのかについて考えることは大変意味のあることである。そのためにも、小・中学校の教員による協働も一層推進していく必要がある。

2 学校関係者評価

日 時：令和 5 年 2 月 2 4 日（金） 1 5 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0

会 場：杉並区立西宮中学校多目的室

【学校関係者評価の結果】 委員からの意見及び質問等

<記号の説明> ○：委員からの意見・質問 →：学校からの回答 ●：出席者からの意見・感想等

- 生徒の清掃活動について、先生方は生徒をどのように指導していくのか。（質問項目：生徒対象独自質問 1 5）
- 清掃活動については、自分たちの環境整美にどう取り組むのかについて、子どもたちに考えさせることも 1 つのやり方だろう。
- 掃除は、昔は家で親が子どもに厳しく教えたものだ。学校だけで清掃指導を行うのは、今は難しいのではないか。各家庭に協力してもらう必要がある。

- 小学校での掃除は縦割り、児童は担当の場所を一生懸命掃除している。中学生になると当番制になり、責任をもってやる生徒とそうではない生徒が出てくる。環境委員会による美化コンクールは一生懸命に取り組んでいるが、生徒主体なので取り組み方に幅がある。学期末のワックスがけも委員会で行うので、自分には関係ないという考えをもつ生徒が出てきてしまうのではないか。
- 主体的に清掃活動に取り組んでいる生徒もいるが、責任をもちず清掃をさぼって帰ってしまう生徒に対して、先生方は指導する必要があると思う。

→ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、清掃活動を始めとして様々な活動が緩くなったことは事実である。しかし、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきたので、今後はどうしていくべきかについて検討していく必要がある。

また、本校は自主・自律を掲げて生徒は学校生活を送っているが、教員がそれに慣れてしまっている面もある。自主・自律という言葉に任せて、生徒を指導することをためらわないよう教員には伝えている。

教員の人数についても課題がある。各クラスは担任が清掃監督を務めるので、ほとんどの生徒は一生懸命に掃除をする。しかし、それ以外の場所（特別教室等）については監督教員の数が足りず、全ての清掃箇所を監督できないこともある。

○ 学校運営協議会を対象とした質問について、肯定率が8割を大きく上回り、高い評価になった。

→ 学校運営協議会の委員の皆様は、本校の様子を詳しくご存じのため高評価をいただいている。一方で、保護者は学校だよりや学年だよりなどで学校の様子を知ることができるが、直接学校を訪れるのは保護者会や土曜授業での学校公開等しかないため、学校の様子をより知っていただくためにはどうしたらよいかを工夫していく必要がある。